

新春文芸

武者塚古墳



土浦市立博物館長
上高津貝塚ふるさと歴史の広場館長
茨城大学名誉教授

茂木雅博



銀帯状金具

昨年7月土浦市立博物館は開館25周年を迎えました。それを記念して、私達は最近の人気ゲーム・アニメを加えた特別展『婆娑羅^{ばさらか}たちの武装』を開催させていただきました。

この展覧会は名称からすると興味本位に思われるかも知れませんが、全国から多くの指定文化財をお借りして、大変学術的に高度な内容であったために、市民の皆様だけでなく全国あるいは外国からも足をはこんでいただきました。期間中の観覧者は2万8057人、附属展示館の東櫓にも1万3386人が入館していただく盛況でした。



武者塚古墳石室 写真提供:筑波大学考古学研究室



銀装圭頭大刀



鉄柄銅杓

期間中市民の皆様には多大なご協力いただき、この誌面をお借りしてお礼申し上げます。

さて今回は上坂田地区に存在する武者塚古墳についてご紹介させていただきます。

この古墳は昭和58年3月に筑波大学教授増田精一、岩崎卓也氏が当時の新治村の要請によって発掘調査をしました。直径23メートルの円墳で、墳丘はすでに削平されており不詳でした。埋葬施設は地下に設けられた箱式石棺と横穴式石室を折衷したこの地方独特の形態で、主軸を南北に置き、長さは約2メートル、奥壁幅1.5メートル、前室側幅1.6メートルを測り、蓋石4枚、奥室側石各1枚、前室側石各1枚の雲母片岩の板石を使用した石室であります。

奥室内には6体の遺体が追葬され、その中の5体は北枕、1体は南枕に埋葬されておりました。また近年の調査でこれらの遺体には経錦と呼ばれる絹布が掛けられていたことがわかりました。

遺体の中には大変保存状態の良いものがあり1号と2号には頭髪が遺り、特に2号人骨には頭髪、口髭、顎鬚が確認されました。頭髪は中央から左右に分けられ、左側では、その先端部が「みずら」に結われていることが確認されました。

これは日本史上初めての発見で、

当時は大変話題になりました。

副葬品としては、3号人骨からガラス小玉、5号人骨から勾玉、切子玉、ガラス小玉などが伴出しましたが、全体的には、前室に武器類(大刀5、鉄鏃42)、銀帯状金具1、鉄柄銅杓1が存在しました。特に後二者は、日本古代の遺品中の類例の極めて少ない逸品であります。

銀帯状金具は幅2センチ、厚さ0.5ミリ、長さ約48センチの精巧な文物で、その中に彫まれた唐草文様は法隆寺の救世観音の宝冠を連想させます。また鉄柄銅杓はわが国に3点目の極めて注目される遺品で、正倉院に保管されている柄香炉や火熨斗を思わせますが、片口が存する所から杓とされました。

これらの出土品は、一昨年の法隆寺調布の里

◀ 埋葬遺体から発見された「みずら」
写真撮影:梅原章一氏



帰り(市立博物館第33回特別展)をきっかけに、武者塚古墳の経錦が確認され、再評価されるようになり、目下整理中です。

武者塚古墳の詳細については、本年3月の館長講座で紹介しますので、博物館にお出かけください。

新春文芸

新春に詠む短歌

七十になり賜れる初孫よ唯々感謝天地の神に

稚児笑う君は五月の王子様可愛い可愛い王子様。癌手術後、生きる事に絶望していましたが、生きていればこんな喜びがある。

穴澤 徹

穏やかに百五歳となる姑のいてわが金婚に喜びの春

難病と向き合いながらも、夫婦が伴に無事金婚を迎えて長寿の姑と祝う事が出来た。健康に感謝し喜びのなかに新年を迎えた。

腰山 佑子

ほうほうと山鳩ひと日を啼きくらす誰を呼ぶのか我が想ひに似て

山鳩の啼く音はよく耳にするのですが此の日は一日中啼いていました。何か一つのドラマがあったのでしようか！

佐藤 哲子

はるか来てカナダの夜明け雲海のはたてに昇る大太陽

「去年今年貫く棒の如きもの」と高浜虚子の句を思いつつ初日の出を拝み厳かな清々しい心で新年を迎えることが出来ました。

瀬古沢和子

正月に誕生するとう君嬉しめでたきかなや家族そろいて

私の若い友人が正月に出産するという。健康で元氣な赤ちゃんであると祈っている。男か女かとやきもきしている。楽しみである。

三浦清次郎

星のかず数千億とふ天の川銀河に息づき歌よむわれは

地球は生命体を持つ奇跡的な星だ。そここつまれ得たことを感謝したい。そして、地球が守られ存続することを年頭に切に願う。

福原 安崇

大洗海岸闇に車のつらなりて初日待つ間のしばし静寂

昭和五十年頃、闇のなか日の出を待つ車、やがて待望の初日が徐々。あの崇高な輝きは今でも脳裡に焼き付いている。

山口 あき

ゆつくりと黒豆を炊く大晦日こころ無にして除夜の鐘きく

色々な出来事が多かった一年も今過ぎようとし新年を迎える慌しい大晦日に「豆に元氣に」との願いを込めて詠みました。

和希 明美

湯の宿の朝の氷柱のつらつらへひたたらす心ほのぼのと春

人生出来得れば何事もなきが一番の倅と思うが、天変地異・否応もない。小康を得ての残生をせめてもの山里の春に浸った。

荒木富美子

子鴨が一羽親を離れて岸に寄り水面を叩く駄々こねるごと

沼に浮かぶ鴨の親子の群れから一羽の子鴨がはみだして、傍若無人に羽ばたくさまがなんとも愛らしかった。

宇留野むつみ

蒼穹に筑波嶺凜と近く見ゆ神さびおもぶる平和を拝む

世界には、戦争により誕生時から平和を知らない子供達がいる。蒼空に映える筑波山の神々しさに全世界の子供達へ平和を祈った。

櫻井 雅江

白、紅と梅の香ただよう梅林の日本の春を慈しみ吸う

災害に明け暮れた昨年であったが、自然は確と春を告げてくれる。自然に感謝の心をこめ、つくば梅林にて。

金丸 玉貴

山裾に小さき柑子艶なせり福来蜜柑と里の人言ふ

寒くなると筑波山麓の坂道でよく見かけます。いつかスケッチした年賀状を恩師に送り喜んで頂いたことを思い出します。

市島 紀郎

筑波嶺の明るき稜線越えきたる風は冷たき新春なれど

土浦に住んではや四十年。朝な夕な筑波を仰いできましたが、その稜線の美しさにはいつも癒されています。

渡部 克美

夕つ方頭上飛びゆく旅客機に足裏の数だけ物語あらん

草取りをしている夕空に機影をひからせ空港へ向う旅客機を度々目にする。上空を色々な人生が運ばれていると思つと不思議である。

井上 寛江

軒ひくき堅穴式の住居跡草葺き屋根より仄かな光り

「上高津ふるさと歴史の広場」には四千年前の縄文時代の貝塚や集落跡、住居跡があり先人達の生活の成り立ちを知る貴重な文化遺産である。

大越 里子

新春に詠む俳句

初風の湖一面の光かな

霞ヶ浦の初日の出。眩しさに眼を細め乍ら見渡す水面はとても穏やか。新年は世界そして日本が平和でありますように祈りたい。

相澤アヤ子

初筑波術後の夫を三歩待つ

退院直後の夫と筑波山へ。五百円玉を用意してガラン、ガラン、二人の初詣での音を鳴らす。夫が早く元氣になりますように。

佐藤てつ子

気遣いの宙に浮きゆく福わかし

人生七十余年。人に対して思いやりが深くなってくる。元朝に汲む若水も、沸かされて福茶となる。湯気が宙に浮いていく。

土田 信子

餅搗や母のあいどり大きな手

元旦の空が暁となる頃、餅搗が始まる。父が杵を振り上げると、母が餅をくると返りポンポンと叩く息の合うリズム。懐かしい。

土屋佐奈江

蒼い地球波より上る初日かな

宇宙より届く映像、今まさに初日が上ろうと辺りがだんだんと明るく染まってくる。その素晴らしさ。心が新たになるひととき。

中嶋千恵子

若水を汲むや畏敬のこころ汲む

自ずと引き締まる元朝。生きていま若水を汲むことの。有難さ。さあ、今年も一日一日を大切に、生き甲斐をみつつけていこう。

増田 洋子

金箔のこぼれてきたり冬銀河

年始の客を送り出した夜更け。見上げると、凍てつく寒さのなか、オリオン・ペガサス・白鳥座など冬の星座が冴えわたっていた。

山根 延子

平和への睨みを利かす奴風

奴風が勢いよく揚がっている。世界の平和を願う空は晴れ渡っている。二〇一四年、笑顔の満ちた穏やかな年でありますように。

吉田 博子

新春に詠む川柳

傘寿来て絵馬いつぱいの願いごと

男性の平均寿命を過ぎてまた人生を考え直し、初詣で絵馬に書いてお願いした。健康、長寿、家族など、また一年が始まった。

近藤 稔夫

新年の風に向かって歩み出す

またこの一年、いろいろなことがあるだろうけど、前向きにやっていきたいという気持ちです。

久保田莉凡

書き初め筆にも屠蘇を舐めさせる

墨の中に、酒を一滴筆もほろよい気分になり、傑作になる予感がする。

太田 鳴子

新年の子等を待ってたポチ袋

お正月は何と云っても子供達にとつて御年玉が一番の楽しみ。またおじいちゃんおばあちゃんも上げるのを楽しみにしています。

永井 花菜

一年の幸せ数え初暦

新年に初めて暦を開く。まっさらな暦にはまだ見ぬ今年の佳き事が詰まっている。人々が平穏に暮せる日々と好運を祈るばかり。

富永 柳道

新春の祝太鼓に淑氣満つ

元朝参りは家族揃って八坂神社。御祈禱をし福達磨を買う。普段と違う雰囲気、杜を揺るがす祝太鼓の響きに心も弾む。

石引たか女

同じ手で同じ賀詞ある年賀状

印刷された中に、手書きの一行が有る年賀状は、その人との距離感が何とも言えない心の安らぎとして醸し出されます。

木内たけし

三ヶ日朝から酒とテレビ漬け

朝っぱらから大っぱらに寛げるのは正月の三ヶ日。この時ばかりは誰にも文句を言わせず存分に好きな酒とテレビに浸り込みます。

大井つかさ